

# 「大学体育スポーツ学研究（第18号）」優秀論文賞 選考経過および講評

## I. 選考経過

### 1. 選考対象となる論文

2021年3月に発刊された「大学体育スポーツ学研究（第18号）」に掲載された15編のうち、寄稿論文および報告の5編を除く10編（原著論文4編、研究ノート6編）の論文を選考対象とした。

### 2. 選考委員（敬称略）

木内敦詞（委員長）、西田順一（幹事）

第1次選考委員（本誌編集委員）：

西田順一、難波秀行、園部 豊、木内敦詞、梶田和宏、小林雄志、佐藤 和、高田大輔、田原亮二、中田征克、中山正剛、西垣景太、平工志穂、藤野和樹、山本浩二

第2次選考委員：

木内敦詞（委員長）、西田順一（幹事）

中須賀巧、清水茂幸、西村次郎、藤井雅人

### 3. 選考結果

第1次選考では、選考委員それぞれより優秀論文賞に相応しい2編の推薦がなされ、そのうち推薦数の多かった上位2編を第2次選考の対象とした。第2次選考では選考委員が2編に対して量的・質的評定を行った。その結果に基づき、最終的に以下を受賞論文として本連合常務理事会へ上申し、承認された。

## 受賞論文名

「日常生活のセルフモニタリングおよび運動課題を中心としたオンライン体育授業の実践とその効果の検討」

著者：小倉 圭、道上静香、榎本雅之

掲載：大学体育スポーツ学研究，18：97-111，2021年3月

以上

## II. 講評

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大によって、対面実技を中心に行われてきた大学体育は、その授業形態の変更を余儀なくされた。そのような中、本研究は行動変容技法の1つであるセルフモニタリングの活用と運動課題の動画配信を併用したオンライン体育授業の実践を詳細に提示するとともに、その効果を検証したものである。

本研究では国立大学初年次学生453名（男性316名、女性137名）を対象に、主にストレッチングやウォーキングなどの有酸素運動および筋力トレーニングをオンライン授業の運動課題として設定している。セルフモニタリングは生活習慣全般、すなわち運動、食事、睡眠に関して行われた。授業では、健康や運動理論に関する講義に加えて、運動課題に関する動画のオンデマンド配信も行っている。授業内容は緻密で、運動課題やモニタリング内容も丁寧に記述され、さらに適切な統計解析が行われており、研究方法の妥当性を高く評価できる。

本研究で行われた日常生活のセルフモニタリングおよび運動課題を中心としたオンライン体育授業は、受講生の運動実践の恩恵知覚の向上や、運動習慣および食習慣の改善といった正の効果をもたらしたことを報告している。その一方で、受講生の睡眠習慣や主観的健康度の改善に至らなかったことや、社会的適応支援といった初年次教育への寄与は十分でなかったことについても、客観的に考察を加えている。

今もなお収束の見えないコロナ禍にあって、オンラインによる大学体育授業の教育の質保証は喫緊の課題である。本研究は、コロナ禍への対応としての実践にとどまらず、ポストコロナ社会における大学体育授業の新たな可能性を検討する上で、有用な情報を提供している。多くの大学が実技科目のオンライン化に苦慮する中、体育授業の実践に寄与する事例を具体的に提示しており、本誌の理念を体現した論文といえる。